

〔技術のページ〕

「地域産飼料」を利用しましょう

畜産研究所 経営技術研究室 企画開発グループ

1 取組の背景と目的

畜産経営の生産基盤を強化するためには、飼料自給率の向上が重要な課題となっています。近年、耕畜連携により水田を利用した飼料生産が進んでおり、経営内での粗飼料確保が困難な場合は、地域で生産される稲WCSやトウモロコシWCS（ロールベール・ラッピングされたもの）などの利用拡大が必要と考えられます。

そこで、県畜産課、県民局畜産班及び畜産研究所が一丸となり、「地域産飼料の生産・利用拡大」を県下全域のプロジェクトと位置づけ、関係団体と連携して推進していますので、その取組を紹介します。

※地域産飼料とは

「耕種農家が生産し畜産農家が利用する自給飼料」のことを表します。

2 取組内容

(1) 地域産飼料の利用意向調査

平成28年度は、県内の酪農家全戸に対して、地域産飼料の利用意向調査を実施しました。（アンケートにご協力いただきありがとうございました。）

稲WCSは、「利用量を増やしたい」または「条件次第で利用してみたい」が13%ありました。また、利用しない理由としては、「取り扱いが困難」、「品質に不安」、「保管場所がない」などでした。

トウモロコシWCSは、「利用したい」または「条件次第で利用してみたい」を合わせると23%ありました。また、利用しない理由としては、「取り扱いが困難」、「保管場所がない」、「価格が高い」が挙げられま

した。

このような結果から、地域産飼料の特徴や利用方法等について、畜産農家へ情報提供することにより、まだまだ利用を拡大できるのではないかと考え、次のような取組を行いました。また、地域産飼料の供給量を確保するため、耕種農家に対して生産を推進することとしました。

(2) 畜産農家への地域産飼料利用推進

地域産飼料の給与事例について、県民局が主体となって実態調査を行い、これを基に関係機関の協力を得て、稲WCSとトウモロコシWCSの利用啓発資料を作成しました。これらを用いて、地域産飼料の適切な給与方法を畜産農家へ説明することにより、利用を推進しました。

利用啓発資料には、稲WCSやトウモロコシWCSの利用により飼料費低減を実現しているモデル農家の調査結果から、利用前後の飼料費比較と、生乳生産量や乳脂率等の泌乳成績を掲載しました。（図は稲WCS利用啓発資料の一部です）

それぞれの飼料の特徴としては、稲WCS専用品種「たちすずか」「たちあやか」について、高品質でサイレージの通年給与が可能な点や、繊維の消化性が良いことを利点として挙げました。また、汎用型収穫機で収穫されるトウモロコシWCSについては、高密度、高栄養で品質が安定しているため、乳量の増加が期待できることをメリットとして挙げました。

また、地域産飼料の利用に失敗しないように、それぞれの給与上の留意点についても資料に掲載しました。

(3) 耕種農家への地域産飼料生産推進

耕種農家に対しては、稲WCSとトウモロコシWCSの生産啓発資料を作成し、約1ha以上の面積集約が可能な地域を中心に推進しています。

稲WCS資料には、専用品種の導入による高い収益性（試算値）を示すとともに、契約栽培の手続き、牛の飼料としての農薬制限、雑草混入防止等の留意事項を掲載しました。また、トウモロコシWCS資料には、収量向上と雑草混入防止のため、水はけの良い圃場での栽培や丁寧な土壌鎮圧が大切であることを示しました。

3 今後の課題

利用側の課題として、保管場所の確保や効率的な流通体制の構築、小規模農家でも利用しやすい製品化などが挙げられます。また、生産側では、異品種混入・雑草対策・労働分散対策及び鳥獣害対策が必要と考えられます。

今後も、地域産飼料に対する情報共有を図るため、実証展示ほの設置や現地説明を行い、関係機関が一体となって地域産飼料の利用を推進していきたいと考えております。

茎葉多収型 高糖分 WCS専用品種×細断処理 「たちすずか」「たちあやか」 WCSを利用しよう！！

たちすずかWCS給与事例①

対象 搾乳牛 給与方法 TMR

稲WCS給与開始前後の給与メニュー(変更飼料のみ)			
飼料名	開始前	開始後	コスト比較(円/日・頭)
チモシー乾草	3	2	△60
スーダン乾草	2	1.5	△28
稲WCS(たちすずか)	-	4	54
計			△34

※給与量は原物kg/日・頭

稲WCS給与時の泌乳成績

乳量(kg/日)	37.7
乳脂率(%)	3.79
無脂固形分率(%)	8.91
蛋白質率(%)	3.36
体細胞数(千個/ml)	179

※牛検成績の3ヶ月平均

たちすずかWCS給与事例②

対象 搾乳牛 給与方法 TMR

稲WCS給与開始前後の給与メニュー(変更飼料のみ)			
飼料名	開始前	開始後	コスト比較(円/日・頭)
スーダン乾草	2	-	△90
稲WCS(たちすずか)	-	6	81
計			△9

※給与量は原物kg/日・頭

稲WCS給与時の泌乳成績

乳量(kg/日)	36.8
乳脂率(%)	3.95
無脂固形分率(%)	8.95
蛋白質率(%)	3.42
体細胞数(千個/ml)	84

※牛検成績の3ヶ月平均

給与上の留意点

(NOSAI岡山 牛群代謝プロファイルテスト担当のアドバイス)

- 収穫遅れの稲WCS給与は、利用できない繊維の量が増えるため、給与メニューや給与順を検討する必要があります。
- 乾乳期への稲WCS給与は最適ですが、乾乳期用濃厚飼料を忘れずに併用し栄養を補いましょう。
- 泌乳初期はエネルギー不足等で様々な代謝病が発生しやすい時期なので、稲WCSの多給には注意が必要です。
- 茎葉多収型の稲WCS専用品種が望ましく、稲WCSを給与する際には飼料分析を行って指導者の指導を仰ぎましょう。

図 稲WCS利用啓発資料(抜粋)